

札幌女子教育の開拓者

サラ・クララ・スミス

女子教育が普及していなかった明治時代の札幌。ここで女学校を設立し、女子教育に力を尽くしたアメリカ人女性を紹介します。

わずか八カ月で廃校となった開拓使女学校を除くと、札幌初の女学校は、女性宣教師サラ・クララ・スミスが創設したものです。明治二十年（一八八七年）に開かれたときの教室は、北一西六あつた官舎の馬小屋を改造したものでした。

スミスは、アメリカのニューヨーク州出身。師範学校で学んだ後、同州内で小学校教師をしていました。ところが、兄が牧師に就任した直後、病気のため教壇で倒れて亡くなるという事件が起こりました。スミスはひたすら神に祈りました。このときからキリスト教を布教しようという強い使命感を持つようになったそうです。やがてスミスは宣教師として日本で活動することを決心しました。

十三年（一八八〇年）に来日すると、東京の新築

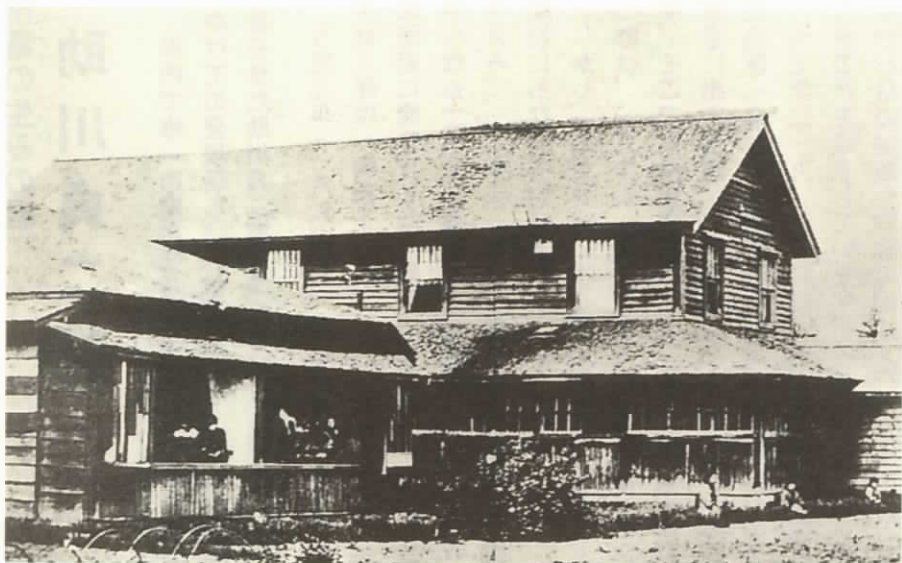


北星学園の創設者
サラ・クララ・スミス
(北星学園所蔵)

日本最初のライラックをアメリカからもたらしたのも彼女だといわれています

女学校に着任し、校長になりました。しかし湿潤な気候が合わず、重いリウマチにかかつてしまい、医師や伝道協会から帰国を命じられました。それでも宣教師としての志を貫くため、故郷の気候に似た北海道で活動することにしたのです。二十年（一八八七年）、札幌でお雇い外国人として、北海道尋常師範学校の英語教師になったスミスですが、彼女の願いは女学校をつくることでした。そこで、自分の給料を投じて、私塾として女学校を開くことにしました。

スミス女学校はこのような彼女の熱意と努力によって、誕生しました。二十七年（一八九四年）には、北四一に校舎を移し、新渡戸稲造らの勧めで校名を北星女学校と改めました。同校は今の北星学



開校当時のスミス女学校（北1西6）（北星学園所蔵）

園の前身です。

スミスの女学校では、「実生活に役立つ知識の教育とキリスト教に根差した人格形成」が教育方針でした。さらに、聖書、英語、音楽教育を充実させ、明るく上品な学校として評価を高めていきました。

昭和六年に引退し、アメリカに帰るまでの四十四年間、スミスは札幌の女子教育の発展に大きく貢献しました。

（平成十一年一月号・第五十三回）